

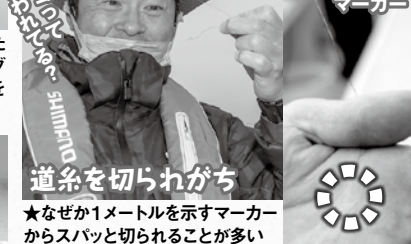
東京湾の当日のルアー船で見つけた タチウオジギングで 〇〇ガチマシーン



シゲを釣りがち
★だれかの高切れした道糸がヨッシーのジグに絡まってきてジグを回収



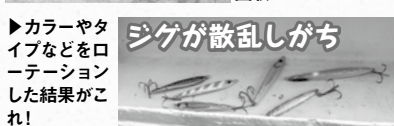
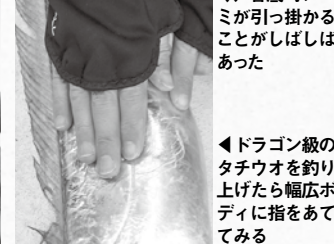
シゲに付いた傷を探しがち
▶タチウオに付けられた傷がないかジグをチェック。新品だと分かりやすい



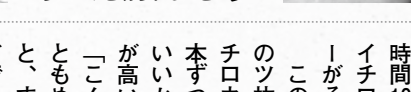
指幅を測りがち
▲当日は底から15メートル以内を探ることが多く、着底時にゴミが引っ掛かることがしばしばあった



指幅を測りがち
▲当日は底から15メートル以内を探ることが多く、着底時にゴミが引っ掛かることがしばしばあった



ジグが散乱しがち
▲カラーやタイプなどをローテーションした結果がこれ!



道糸を切られがち
★なぜか1メートルを示すマーカからスパッと切られることが多い

極的に口を使うほど活性は高くないだろうね。
タチウオはボトムにへばりついて、巻きに反応した個体がジグを追い、フオールの瞬間にリアクションで食ってきてるんだと思う」
これからの走水沖での釣りについては、
「たたかれまくってスレてるのが多いからね。ジグを巻く、落とすを何度も繰り返して、リアクションバイトを誘うしかないんじゃないかな」
8時35分、走水沖のポイントに到着すると、ヨッシーの言葉どおり大船団ができています。これはタフそうだし……。
隣の船の釣り客の会話が聞こえてくるほど、船と船の間が接近している。テンヤ、テンビン、そしてジギング。船によって釣法は様々だ。
こうなると、エサを使うテン

は気持ちいいことこのうえない。とかく奇麗な状況にたたくさまれることが多いツリガチ取材班としては、「こんないい日があってもいいのかねえ」と顔を見合わせて微笑むほどである。
その後、時折アタリが遠ざかることはあっても、飽きない程度にタチウオが釣れる。
9時半から10時40分までの1時間10分で、ヨッシーが3本、イチロウ、トモキ、タカハシゴがそれぞれ1本ずつ追加。
この時点でヨッシー10本のツ抜け、トモキ5本、イチロウとタカハシゴが3本ずつとなった。サイズがいいから、数以上に満足感が高い。
「こんなにガチで釣れることもめったにないよね」と、すでにリラックスモードである。沖揚りは14時。まだまだ戦闘は続くのだが……。

ヤやテンビンに対し、金属製ルアーで立ち向かうジギングは不利なのではないか、と疑心暗鬼が生じてしまう。
だが、走水沖の水深70メートル前後のポイントでは、釣り開始から1時間で、ヨッシーが7本、トモキが4本、イチロウとタカハシゴが2本ずつと、想像以上に釣れる。
周りの船を見渡しても、ジギングのほう有利なようだ。ヒートルアーは、動きの少ないアンチヨビメタルTYPE・Ⅲ。「極端な動きを嫌い、リアクションで食ってくる」という、ヨッシーが言ったとおりの状況である。
そして、左舷の間でどよめきが上がった。

★132センチのタチウオを頭上に掲げ、同船者や周りの船のお客さんから注目を集める



II、IIIを細かく使い分けながら、状況を探っていた。
そして、早々にTYPE・IIには見切りを付けていた。
「水平フォールでアピール度が高いTYPE・IIだけど、今日は全然食ってこないんだ。やっぱりフォール時にはあまりヒラヒラせず、シュッと落ちるタイプがいいようだ。」
ということは、TYPE・IかIIIってことになる。その中でも、フォールスピードが速くて

「えへへ、やっちゃいました」と、17センチのドラゴンをぶら下げて見せてくれたのは、だれだろう、ヨッシーが熱心にアドバイスしていた本橋さんではないか。
「すげえ〜!」
「でっか!」
「素晴らしい!」
「タチウオ、だれに釣れたらいいか分かってるね!」
大いに盛り上がるツリガチ取材班。自分が釣るよりも、人がとくに釣りガールが釣ることをよるこびガチな面々である。
ヨッシーのアドバイスどおり、タダ巻きに徹していたという本橋さん。釣りガールの細指では指幅7本ものドラゴンサイズは、まさに大殊勲だった。

リアクションバイトを狙いやすいタイプ・Iにアタリが集中するね」
TYPE・Ⅲで粘るタカハシゴが数をのばせないのと対照的に、TYPE・Iのヨッシーがバシバシと釣る。この日はTYPE・Iがガチ当たりジグだったようだ。
日によって、あるいは時間によって、反応するジグがまったく異なるのがタチウオの難しさであり、面白さ。ジャッカルのアナチヨビメタルに用意されている4タイプのジグは、戦略的タチウオジギングゲームを楽しむために必要なラインナップだ。終わってみれば、ヨッシーが最大132センチを頭に圧巻の21本で竿頭。途中、再び釣りガールのもとにはせ参じてアドバイスを送り、長時間ロッドを置いての釣果だった。
ツリガチ取材班では、トモキがタングステンジグを効果的に投入しながら10本、イチロウが14本、そして永遠の初心者であるタカハシゴですら6本。
期待を上回るオーブニングで幕を開けたタチウオジギングは、期待を上回る釣果で幕を閉じた。その後もこなや丸のタチウオジギングは、トップ20本以上の釣果を上げ続けている。

でもいんだけどね……。
スイッチを入れる役のタチウオはいるんだけど、それに続くヤツらが少ないな。ポツポツ拾っていくしかないね」
とにかく釣らせたいがゆえに、やや渋い表情の進藤船長だが、印象としては十分に釣れている。途中から太陽が顔を出し、ほどよくアタリもある。ナギの海

形状で変わるジグの動きに着目
タチウオ好みアクションを探求
だれかが釣ると、だれかが続く。でも、それが長くは続かない。火の手は上がるが爆発はしないという、なんともどかしい状態だ。
「スカツとしない釣りになっちゃってるね」と進藤船長は苦笑いする。
「いったんスイッチが入れば、群れ全体がブワッと盛り上がり

リールの巻きの中で緩急をつけて。巻いて巻いて、一瞬止めたときに食ってることが多いよ。



▲釣りがールに付きっきりでレクチャーする

▲松井香菜子さんが1メートル級のタチウオをキャッチ